

センチメンタル・プラスチック

茨城県 茨城大学教育学部附属中学校一年

齋藤 悠一郎

この世に生まれて
ちやほやされて
カラフルで
ワンドフルで
ビューティフルな
日々を過ごす
任務終了とともに
打ち捨てられ
風に吹かれて
波間を漂う
何年も
何十年も
紫外線にさらされ
波にもまれ
色あせて
小さく
小さく
小さくなっていく
海面にも
海底にも
無数の仲間たち
人間への
復讐を誓って
今も私は
ここにいます

(文部科学大臣賞)

世界の色

宮崎県 県立宮崎商業高等学校

小出水 柚花

私の世界に色はない。

生まれた頃から色はない。

それが普通。そう思ってた生きていた。

幼稚園生になり、言葉が分かるようになった。

友達と言う。

この花は赤色、あつちは青！と

何、それ。

赤色、青色？何それ知らない。

何が違うの、全部同じ色でしょう？

だってそれが私に見える世界。

黒と白の、つまらない世界。

月日が経ち、私も高校生。私は人と違う。

目の病気。でも、親はサポートしてくれる。

周りも理解してくれている。

私の誕生日になった。

プレゼントは、ちよつと変わったメガネ。

早速かけてみると、涙が溢れた。

目の前の世界に目を疑がった。

私の世界に、色がやって来た。

どの色が赤？青？わくわくした。

色があるって、こんなに楽しいんだ。

ああ、私のいる世界は、美しかったんだ。

言葉の魔術師

広島県 福山市立駅家南中学校

中嶋 紗弥香

弟は言葉でいろんな世界を作り出す

「しみっこぐらし」は

「すみっこぐらし」のことだった

トランプで「しゃっくり」を何度も要望
シャッフルしてほしかったらしい

コップに一杯の水をみて「ちよのうりよく！」
表面張力と聞いたかったらし

ポップコーンは

ポップコーン

「排便は教室でするんよ」

何かと思えば「配膳」のこと

電車好きの弟が好きなのは「ワンワン電車」

ほんとはワンマンなんだけど

かわいらしいから

黙ってる

ちよつと発音変わるだけで

こんなに世界は違って見える

弟は言葉の魔術師だ

あおじんたん

宮崎県 県立宮崎商業高等学校

田 牧 司

カルガモみたいな登校班が
まだあおい空の下白線を歩く
私とあなたに重なって
帰り道のアイス屋が
チョコレート味が大好きな
あなたを映す

体操着入れを蹴る小学生と傘を振りまわす
小学生が
ちゃんばらをして道を占領していた
私とあなたに重なって
土日の多めの宅集が
宿題を放って遊びだす
あなたを映す

普段は意識なんてしないのに
ふとした瞬間押してみると
じんわり痛む青い痣

なかなか消えなくて
どことなく存在感があつて
私を不恰好にさせる
悲しみのあお

悲しいのに忘れたくなくて
時折おもいつきり痣を押す
じんじんからだに響くあおが
私とあなたの思い出を呼びおこす

人は声から忘れていくらしい
それでもはつきり覚えている
あおじんたんよりよっほど優しい
澄んだみずいろの声をしたあなた

あなたは今
私に大きなあおをつけている

イベリス

宮崎県 県立宮崎商業高等学校

麻生 麻知子

皆さんにはキャンバスが
配られていることと思います
ひとりひとつ

大きさは分かりませんが、
ひとつよってまちまちでしょうか

今までどんなものを描いて
きたのでしょうか

暖かかったり、冷めたかったり
明るかったり、暗かったり

やけになつてグチャグチャにしたり、
まっさらに見せてみたり

未だに何も描けていない方も
いるかもしれませんね

それでもいいのです

何かがつっかけで色づきもします

ですが、どうかキャンバスを
失したり、壊したりしないで下さい
いつか必ず共有できるひとが
あなたのキャンバスを
豊かなものにしてくれます

唯一無二

あなただけのキャンバスを
いつか私に見せて下さい

あなたの描いた世界がまた
見たいのです

ですからどうか、どうか
キャンバスから手を放さないで下さい

無色写真

宮崎県 県立宮崎商業高等学校

鎌田 莉花

一人静かに眺めたあの淡い空が
深い暗闇に包まれていった
隅から顔を出し映り込んだあなたは
わずかな光を灯し輝いて
僕のもとに表れた

フィルムに焼き付く様に
忘れない様にシャッターを深く切れば
とめどなく溢れだす
日々の記憶

何ひとつ代わり映えのない日が
あなたのおかげで
僕の世界に色が付き始めた
目を細めて恥じらうように
鈴を転がすように笑うあなたの
そんな気ままな姿に
写真を撮った数えきれない日々が
思い返せばいつだって
そばに寄り添ってくれた
共に過ごしてきた日々を
その場面をこれからも収めよう

こんなに深い底にいた僕を
見つけて照らしてくれた
優しい光
温かくて嬉しくて
救われたんだ
モノクロがカラフルに変わる瞬間だったんだ

流れ星のように
輝きを持って流れた涙
頬を伝う雨のように